

信州大学における地域や学生との協働を目指す DX の取り組み

増田 靖子¹⁾, 常田 忠将¹⁾, 鈴木 彦文²⁾

1) 信州大学 経営企画部経営企画課 情報戦略室

2) 国立情報学研究所 学術基盤推進部 学術基盤課 学術認証推進室

masuda_yasuko@gm.shinshu-u.ac.jp, tokida_tadamasa@gm.shinshu-u.ac.jp,

h-suzuki@nii.ac.jp

DX Initiatives for Collaboration with the Community and Students at Shinshu University

Yasuko Masuda¹⁾, Tadamasa Tokida¹⁾, Hikofumi Suzuki²⁾

1) Division of Management and Planning, Department of Management and Planning, Information Strategy Office, Shinshu Univ.

2) Academic Authentication Systems Office, Academic Infrastructure Division, Cyber Science Infrastructure Development Department, National Institute of Informatics.

概要

信州大学においては、地方大学が果たすべき 5 つの機能を十分に果たすことが地方大学の地域に対する社会的責任であると考えている。これに基づき『信州大学改革実行プラン inGEAR』^[1]を策定しており、2022 年度から始まる第 4 期中期目標期間において、信州大学の価値創造と社会的責任を果たすための具体的な行動計画に基づいて活動している。このために、信州大学では、2022 年に「情報・DX 推進機構」^[2]を設立し、大学の経営革新・業務効率化・新事業創出などの取り組みや、教育・研究活動の高度化・機能拡張に取り組んでいる。本稿ではその取り組みについて紹介する。

1 はじめに

信州大学は 5 キャンパスに分散する分散キャンパスである。およそ 14,000 人の教職員・学生が在籍^[3]しており、キャンパス間での通信を円滑にするため、各キャンパスは専用の回線で接続されており、インターネットへの接続は SINET6 に接続している。特色のあるキャンパスが分散しているため、情報 DX の果たす役割は大きく、そのため信州大学では 2022 年度から始まる第 4 期中期目標に基づき、『信州大学改革実行プラン inGEAR』^[1]を策定し具体的な行動計画に基づいて活動している。

特に 2022 年 4 月には「情報・DX 推進機構」^[2]を設立し、「DX 推進センター」を実施組織として立ち上げた。また、地域貢献に資するために「信州 DX 推進コンソーシアム」^[2,4]を立ち上げ地域との連携も行っている。更に、「DX 推進センター」において、教職学協働 DX による働き方改革の促進の一環として、学生を中心とした「DX 推進タスクフォース」を発足し活動を行っている。今回はこれらの信州大学における DX 推進の取り組みの一

部を紹介する。

2 信州大学 情報・DX 推進機構

信州大学においては 2022 年 4 月に「情報 DX 推進機構」を組織し、大学における DX を推進している。その理念は[2]より次のようにまとめられる。

- ・ デジタル技術を活用した DX 戦略の推進
- ・ 教育と研究の高度化と機能拡張
- ・ 地域 DX プロジェクトへの協力と持続可能な地域社会への貢献

この理念を実現するために、戦略策定組織として情報・DX 戦略本部を設置し情報・DX の戦略を策定する(図 1)。策定した戦略を実施する組織として、DX 推進センターを新たに設置、また、既存組織として医療情報部、情報基盤センター、e-Learning センターを実施組織として取り入れている。この DX 推進センターを中心として、「DX 推進タスクフォース」と「信州 DX 推進コンソーシアム」をプロジェクトとして発足させ DX 推進に取り組んでいる。

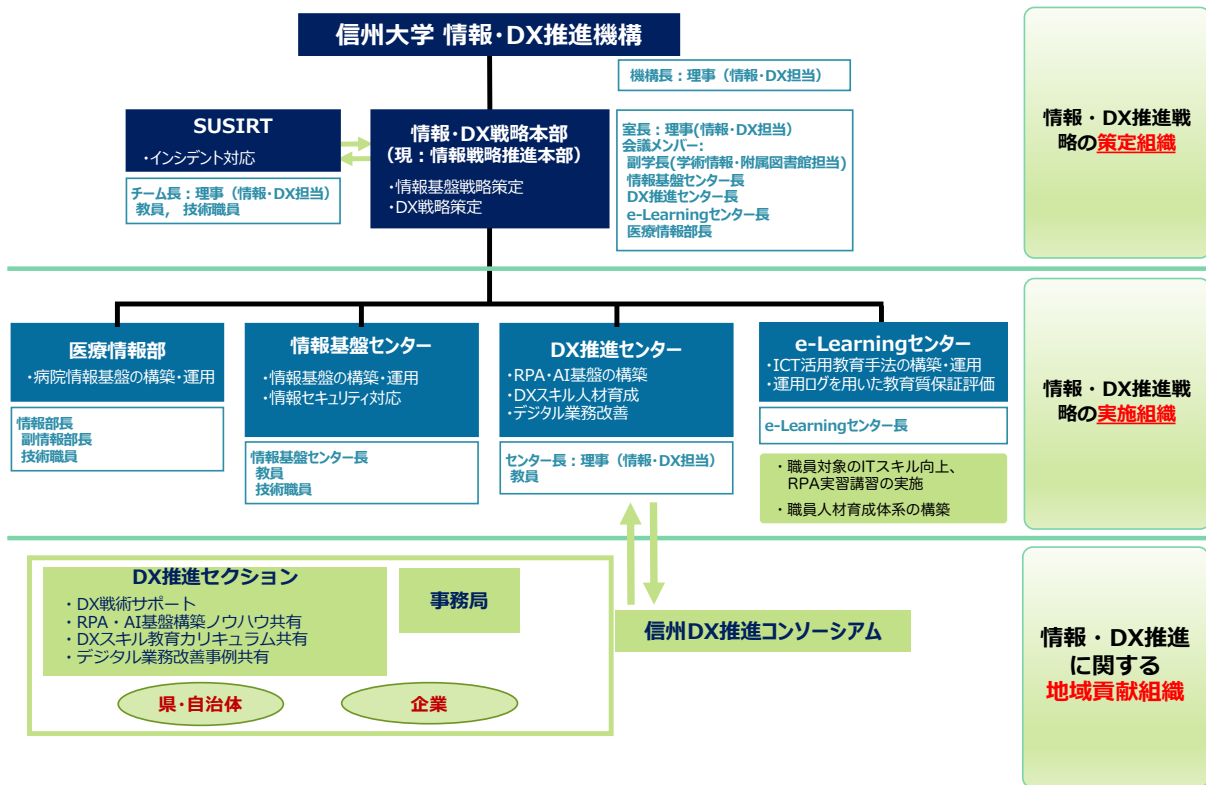


図1：信州大学「情報・DX推進機構」の組織構成

3 DX推進タスクフォース

『信州大学改革実行プラン inGEAR』^[4]は次の3つの要素から構成されている。

- (1) 教職学協働による学び甲斐があり働き甲斐のある信州大学の構築を目指す
- (2) "守破離ステップ"でひらく地域社会と信州大学の明るい未来
- (3) "種発利サイクル"で産み出す持続可能な信州大学

DX推進タスクフォースは2023年4月に発足し、『信州大学改革実行プラン inGEAR』の(1)を実現すべく、学生・教員・職員が協働できる場を確立し、大学運営の更なる高度化を目指すとともに、教職員の働き方改革を促進する。

DX推進タスクフォースでは、学生を中心とした事務効率化に資するシステムを内製開発する。学生により開発されたシステム導入によって得られた成功体験(実績)を重ねることにより、教職員をはじめとする大学全体のDXの醸成をねらう。

期待される具体的効果として、当該タスクフォースの一員となった学生においては、直に大学運

営に参画し実践してもらうことによる将来に向けた有益なスキルの獲得、大学においては、業務効率化(デジタル化)による紙中心処理からの脱却、大学全体の業務統一化等事務改革を推進し、働き方改革に繋げていく。

4 信州DX推進コンソーシアム

信州大学においては、大学長期ビジョン「VISION2030」^[5]の実現に向け、国・地方公共団体や企業などが一体となりデジタル・トランスフォーメーション(DX)を推進するための組織として「信州DX推進コンソーシアム」を設立した^[4]。本コンソーシアムは図1で示すように、DX推進センターと連携しながら、信州大学をはじめ参加団体のDX推進に関する様々な情報を交換するとともに、DX推進に必要な人材の育成や、地域DXを実現するための各種実証実験・社会実装に向けた活動を実施する。図2は本コンソーシアムの事業の概要を示している。

本コンソーシアムでは、デジタル・トランスフォーメーション(DX)により、地域の諸問題を解決し、地域の人々が安心して暮らせる持続可能な地域社会を実現するため、教育機関、国・地方公共団体、企業等の幅広い関係者が相互に連携・協力

信州DX推進コンソーシアムについて（事業概要）

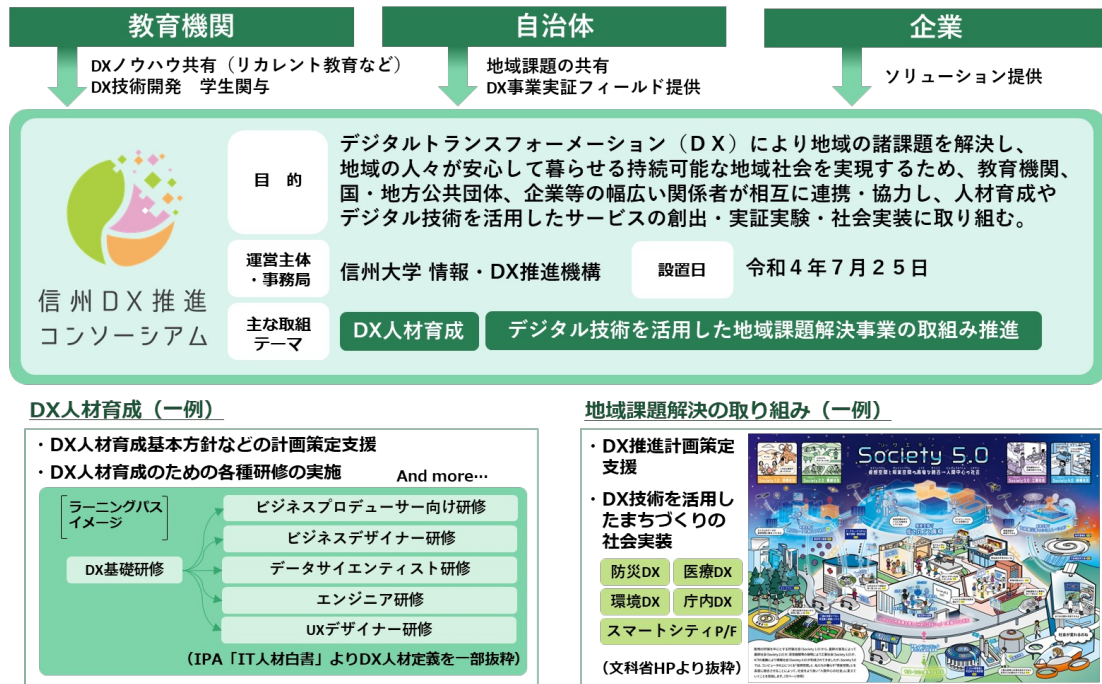


図2：信州大学「信州DX推進コンソーシアム」の事業概要

し、人材育成やデジタル技術を活用したサービスの創出・実証実験・社会実装に取り組む。このために連携する各機関は次の知識やノウハウなどを提供する。

教育機関：DXノウハウ(リカレント教育など)・DX開発技術、学生の関与

自治体：地域課題の共有、DX事業実証フィールド提供

企業：ソリューション提供

5 まとめ

信州大学においては2019年に、高等教育機関として目指すべき姿を展望するため、信州大学創立70周年を機に、大学長期ビジョン「VISION2030」^[5]を策定した。また、2022年度から始まる第4期中期目標期間において、信州大学の価値創造と社会的責任を果たすための具体的な行動計画として、『信州大学改革実行プラン inGEAR』を策定した^[1]。

これらの指針に基づき、2022年に「情報・DX推進機構」を設立し、大学の経営革新・業務効率化・新事業創出などの取り組みや、教育・研究活動の高度化・機能拡張に取り組んでいる。

その具体的な動きとして「DX推進タスクフォース(教職学協働DX)」「信州DX推進コンソーシアム」を構築しDX化に取り組んでいる。そして、これらの活動を通して、信州大学における地域に根ざした情報・DXを推進していく。

参考文献

- [1] 信州大学, 信州大学改革実行プラン inGEAR, <https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/policy/plan/ingear/> (最終確認 2023年9月20日)
- [2] 信州大学, 情報・DX推進機構, 2022, <https://it-initiatives.shinshu-u.ac.jp/> (最終確認 2023年9月20日)
- [3] 信州大学, 信州大学 大学概要, pp.37-40, 2023, <https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/publication/summary/2023/univ-profile/> (最終確認 2023年9月20日)
- [4] 信州大学, 「信州DX推進コンソーシアム」設立のお知らせ, 2022, <https://www.shinshu-u.ac.jp/news/2022/06/dx.html> (最終確認 2023年9月20日)
- [5] 信州大学, 信州大学長期ビジョン"VISION2030", 2019, <https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/policy/vision2030/> (最終確認 2023年9月20日)